

一年学年だより

No. 4 【7月号】

令和3年6月30日発行

「僕に睡眠はいらないので、合格をください。」

ん十年前、(確か)高校に入学した日に担任の先生から聞いた言葉です。大学受験に向けこう祈ったという受験生がいたのだと聞かされ、その後も何度か同じ話を聞いた記憶があります。大学入試は高校入試とは比べ物にならない、高校生活を中学校の時と同じように過ごしてはいけないと、頭と体で理解していく日々。まだ推薦入試が少数派で、同級生もその多くが一般入試(学力検査のみ)で進路を決める時代でした。ただ、そんな高校時代を過ごしたからこの話を出したわけではありません。

現在の大学入試は、学力以外の様々な要素も選考の基準になっていて、多くのことが受験生には求められる。勉強を頑張ることはもちろん大切ですが、加えてコミュニケーションの能力や思考・観察・判断をする力など、知識を詰め込むだけでは得られないものを生活の中から身に付けていかななくてはならない。そういう点ではむしろ、みなさんは私たちの時よりも大変な状況に置かれているのではないかとも思うのです。まさに寝る間も惜しんで様々なことを考え、行動を起こす必要があると……。

でも、特別なことをし続けていかないと本当に力はつかないのでしょうか? 高校生としてやるべきことを当たり前に行う。勉強、部活動、学校行事、日々の生活と誠実に向き合うことで、必要な力はついていくはずです。すでに、みなさんも各教科の授業で様々なことを学び、HR活動などでクラスメートたちと意見を交換し、風制作ではより良いものを作り上げるために知恵を出し合い、部活動では先輩方の背中を見て自分たちも後に続こうとしている。この先に必要な力を少しずつ身に付けているのです。あとは、それをどう積み上げ、どうつなげていけるか、ではないかと思います。

「適度に睡眠をとり、食事をする」ことを含めて、まずは目の前のことに最善を尽くす。この学年だよりが発行されるのは、(みなさんにとって高校で最初の定期考査である)期末考査が終わって答案の返却が始まる頃だと思います。進路課から毎年発行される「進路の手引き」に進路実現を果たした卒業生が体験談を述べていますが、毎日の学習、定期考査、部活動など、日々の生活を大切にしてきたことがよく分かる内容になっています。参考にしてみるのもいいでしょう。無理や背伸びをすることなく、日常を大切にすることから自分が形作られていく! そんな一人一人の成長に期待します(^)/

少し重いフレーズでスタートしたので、最後は希望の持てる歌詞を紹介して締めます。

誰にも 明日がある まっさらのさ 君にも 僕にも わからない

それは きっと 心のリズムしだい ベストを尽くそう <『まっさらの明日』より>

(103HR 担任)

先日、人権・同和教育のホームルーム活動に参加しながら、自分が高校生だった時のことを思い出しました。

(高1のある日の休み時間)

M「私、中学の時○ちゃんの悪口言ったことがある」

K「Mちゃんは、人の悪口を言うような人には見えないよ」

M「…うん」

その後、出身中学も部活も趣味も異なる私たちでしたが、少しずつ仲良くなり、いろんな話をしました。そこにいない誰かの悪口なんかを言う暇もないほど、一緒にいるだけで楽しく、高校生活は多忙でした。

今考えると、そこにいない人の悪口でしか盛り上がれないときは大抵、そのグループの人間関係は脆いのではないのでしょうか。気が付いたらそっと、話題を変えてあげるといいかもしれません。

Mはその後、人の悪口をさりげなく止める人になりました。

(103HR 副担任)